

## 私の思想

岱明支部 塘内 貴大

「今日の努力が明日の一步に繋がるなら」

農作業に取り組むときに私がいつも思っていることです。

現在、私が作っている作物はミニトマト33a、水稻6ha、オクラ10aで、両親と私たち夫婦の4人で、専業農家になります。

昔から農業が好きだった私は、農業高校、農業試験場、育苗会社と進路を進め、その後就農して今年で13年目になります。

J Aたまな青壮年部岱明支部に所属したのは就農してすぐのことでした。

当時、若手農業者が少なかった地元で私が就農する話が広まるのに時間はかからなかったらしく、「せっかく地元に戻ってきたんだから、一緒に頑張ろう」と先輩盟友からの勧誘を受け、青壮年部に入ることにしました。

このことは就農したばかりの私にとって、とてもありがたいことでした。

慣れない農作業、何を伝えたいのか分からない親の説明、使ったことがない農機具など、悩みが絶えない私の話を先輩盟友の方々は、「気軽に圃場に来ていいよ」と言ってくださり、誘引のやり方や温度管理など惜しみなく指導してくださいました。

そうして数年が経ち作業に慣れてきた頃、気になる言葉がありました。

それは「反収」です。

ただただ仕事をこなす毎日、うちほどのくらいの量を出荷しているのだろうか？両親に訪ねて前年のミニトマトの出荷実績表を見せてもらい、愕然（がくぜん）としました。中央ミニトマト部会の平均収量はおろか、地元の岱明支部の平均にすら届いていなかったのです。もしやと思い、水稻の収量も調べてみると、よそよりも1俵以上少ない量というのが毎年続いていることが分かりました。

「我が家の知識だけでは足りない」そう思った私は、外の情報をもっと把握して取り入れ、両親に相談し、なんとか良くなれないかと行動しました。

顔だけは広い父のお陰で、盟友のほかに先輩農家さんの圃場へも訪問させていただく事ができたので、元肥の基準、追肥のタイミング、農薬の散布効果など、遠慮なく聞き込み、実践し、青壮年部の活動の他に、部会や認定農業者の集まりなどにも積極

的に参加しました。

そうしていくうちに少しずつですが、ミニトマト・水稲の収量を上げる事ができたのです。

その時、父から「栽培管理はお前に任せる」と言われ、それから徐々に私が主体になっていきました。「父に認めてもらえた」そんな気がしました。両親の気持ちに応えられるよう、より一層努力しました。

それから暫くして、かねてよりお付き合いしていた方と結婚することができ、2人の子供にも恵まれました。

そして私の中で「もう少し稼ぎたい！」という思いが強くなりました。今から子供たちは成長していくし、両親もまだまだ頑張ってくれている。ミニトマトと水稲の収量は伸びてきたけれども、オクラの収量がずっと変わらない、どうにかできないものかと考えていたときに、JAたまな青壮年部のイベントで岱明地区以外の人と話をする機会がありました。

そこで出会った盟友がオクラの栽培をしていたので話を聞くことができました。その話の中で、私の栽培方法だとマニュアル通りなので、少しだけやり方を変えるといいと言われました。

1つ目は1穴に入れる種の量を増やして間引きをしないこと、2つ目は肥効が長くジワジワと窒素が効く肥料にすることの2点を教わりました。そのまま実行したところ、なんとその年のオクラの収量が前年の2倍に伸びたのです。

収穫や袋詰め作業が多くなり、「歓喜の叫びとはこのことか」と思いました。

暫くしてその盟友と会う機会があり、結果を報告したところ、こんなことを言われました。「自分は新規就農者でまだ3年目。あなたの方が農業歴は長いのに、こんな自分に教えてくれと頼んできた。自分も人から教わった事を伝えただけなのに、こんなに感謝されるとは思わなかったよ。他人から自分が農業者なんだと認められた事が実感できて嬉しかった。」

青壮年部での繋がりがお互いの喜びに繋がりました。

少しずつでいい、無理に規模を拡大しようとせずとも、今までできなかったことをできるようにしていけば結果は必ずついてくる。そんな思いが強くなり、年間計画をきちんと立てるようにしました。大まかでいいから、作物の定植や収穫、それ以外の準備など、作業を行う期間をカレンダーに線を引いて分かるようにしました。

また、ミニトマトのハウスにはホワイトボードを置いて、収穫する日と手入れをす

る日を分けて書き込み、明日の作業をどうするかを家族が分かりやすいようにしました。

そうして家族がスムーズに動けるようになったとき、事件が起きました。

私の右足首が痛むのです。立ってられないほどの痛みで、何があったのか全く身に覚えがありません。妻の運転でハウスまで行き、足を引きずりながらカーテンを開けた後、病院へ行き診察を受けた結果が「痛風」でした。

情けなさと、申し訳なさがありました。2日ほど休みをとり、痛みがやわらいだ時に圃場へ行くと、私が休んでいても予定通りに作業をしてくれていた家族がいました。

「農業は体が資本ぞ！きちんと体のことを知っておかんか！」

糖尿持ちの父が言った言葉に妙な説得力を感じました。それがきっかけとなり、青壮年部からも補助金が出るということで、若人国保人間ドッグを盟友と一緒に受けることにしました。

体が動かなくては作業ができない。新型コロナウイルスの影響で作物の価格が下がる中、収量を伸ばし続け売上が下がらずに済んだのは、こうした家族の支えがあったことだと思いました。

曾祖父の代から続いてきた農業。

「いいことも悪いことも精一杯楽しみなさい、それが農業」

その言葉を引き継ぎ、私で4代目になります。私は先輩盟友のように規模拡大や法人化など秀でたことはできません。

ですが、次世代に繋がるよう私なりの努力は続けたいと思っています。

「今日の努力が明日の一步に繋がるなら、明日の自分は今日の自分を笑ったりはしない」